

【資料 2-3】

事業系燃えるごみの排出量

現状

○実績値と予測との差（伊勢市）

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
予測 (見通し)	—	—	16,801	16,801	16,801	16,801	16,801
実績値	16,405	16,601	16,668	16,067	15,638	13,946	14,402
差	—	—	133	734	1,163	2,855	2,399

※現計画は H29 を基準年とするため、予測との差は H29 から

➡コロナ禍の影響が大きいものの、予測値に対して実績は年平均 1,456 t 下回っている。

○現計画における予測（見通し）

横ばい（減少目標の設定なし）

○現計画における減量施策

清掃工場搬入時の展開検査



搬入量削減効果

★展開検査…伊勢広域環境組合において、一般廃棄物収集搬業者に対し、事業系燃えるごみの搬入時に抜き打ちで行う検査。管外ごみや産業廃棄物等の混入があれば、収集運搬業者に持ち帰りをさせる。抜き打ちを行う対象の収集運搬業者は、年間搬入量の多い業者や、直近の搬入量が増加した業者などとしている。

清掃工場の更新に向け、より一層のごみ減量・資源化が求められている



改定 減量目標の設定へ

予測（見通し）

→H27～R1 までの実績をベースに、当初予測の補正を行う。

※（コロナ禍（R2・3）の影響は除外）。

○補正方法➡多くの市で採用されるトレンド法を採用。

（環境省「ごみ処理基本計画策定指針」→トレンド法を用いて推計）

○新たな施策

<参考> : 伊勢市内の事業所数、観光客数などで低減

予測根拠 H27~R1 の事業所数、観光客数などから数値を算出

観光客数（内宮・外宮参拝客数） 単位：千人

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
内宮	5,489	5,793	5,816	5,622	6,370	3,619	2,606
外宮	2,893	2,946	2,983	2,884	3,360	1,919	1,221
計	8,382	8,739	8,799	8,506	9,730	5,537	3,827
事業系燃えるごみ（伊勢市）	16,405	16,601	16,668	16,067	15,638	13,946	14,,402

※事業系燃えるごみ（伊勢市） 単位：t（トン）

➡観光客数と事業系燃えるごみとが必ずしも連動した動きをしていない。

事業所数

年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
センサス基礎調査	—	6,635	—	—	—	—	6,120
センサス活動調査	6,858 (H26)	—	—	—	7,226	—	—
事業系燃えるごみ（伊勢市）	16,405	16,601	16,668	16,067	15,638	13,946	14,,402

※事業系燃えるごみ（伊勢市） 単位：t（トン）

➡事業所数については、経済センサス調査（基礎・活動）のみが根拠となる（他に集計を行っている調査が無い）

➡事業系燃えるごみと関連付けることは困難